

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長



令和2年度技術情報第9号（サトイモの疫病）について（送付）

サトイモ疫病が前年より早い時期から発生程度の高いほ場が認められ、発生の拡大が懸念されます。防除対策等を取りまとめましたので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

-
- 1 農作物名 サトイモ
 - 2 病害虫名 疫病
 - 3 発生状況
 - (1) 発生地域 県本土
 - (2) 発生量 並
 - (3) 発生時期 やや早い

4 情報の内容

サトイモの疫病について、前年より早い時期から発生程度の高いほ場が認められ、発生の拡大が懸念される。薬剤の予防散布を中心に適切な防除対策を施す必要がある。

5 情報の根拠

- (1) 6月中旬の平均発病株率は46.4%（前年22.9%）、平均発病度13.8（前年5.8）と前年より高く、発生程度のやや高いほ場も認められた（表1、図1、図2）。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温が高く、降水量は平年並みと予報され、今後も発病しやすい条件が続くと予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 前年発生したほ場では、発病に注意する。
- (2) 発病茎葉は発生源となるので、早めに摘み取ってほ場外へ持ち出し、適正に処分する。
- (3) 排水の悪いほ場では多発しやすいので、長時間の滞水を避けるよう、対策を十分に行う。
- (4) 本病は、ほ場の額縁部から発病がみられる場合が多いので、こまめに観察し早期発見に努める。降雨が続くと急激に発生が拡大するので、予防散布に努める。
- (5) 発生ほ場では、直ちにダイナモ顆粒水和剤、アミスター20フロアブルの順に7日間隔で複数回交互散布（図3）し、発生拡大を抑える。
- (6) 薬剤散布後、葉が長時間濡れた状態に置かれると薬害の発生を助長する恐れがあるので、散布は葉が速やかに乾く時間帯を選ぶ。

なお、予防散布剤のジーファイン水和剤は、高温散布時に薬害が報告されており、雨の合間での散布でもその後の急激な日照で薬害が発生する恐れがあるので、注意して使用する。

7 参考データ

表1 サトイモ疫病の発生状況（調査日：令和2年6月10～18日）

調査地	調査 ほ場数	発生 ほ場数(%)	本年発生程度別ほ場数					平均発病 株率(%)	平均 発病度
			甚	多	中	少	無		
南九州市颯娃町	2	0					2	0.0	0.0
南九州市川辺町	2	0					2	0.0	0.0
日置市吹上町	2	0					2	0.0	0.0
霧島市溝辺町	2	0					2	0.0	0.0
曾於市末吉町	2	1			1		1	30.0	7.5
鹿屋市串良町	4	4		2	1	1		50.5	15.4
県本土全体	14	5 (35.7)	0	2	2	1	9	46.4	13.8

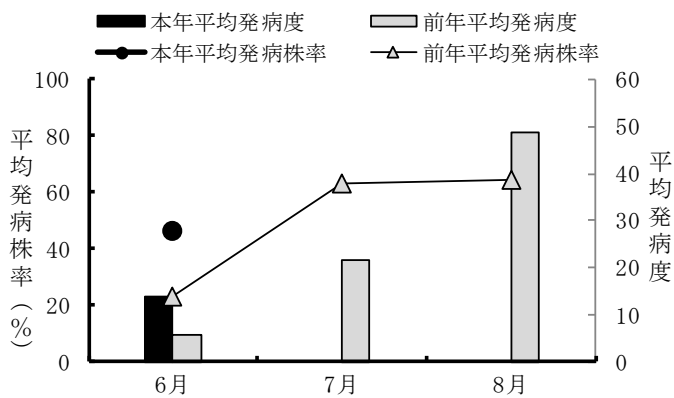


図1 サトイモ疫病の前年との発病状況の比較



図2 サトイモ疫病の発生ほ場

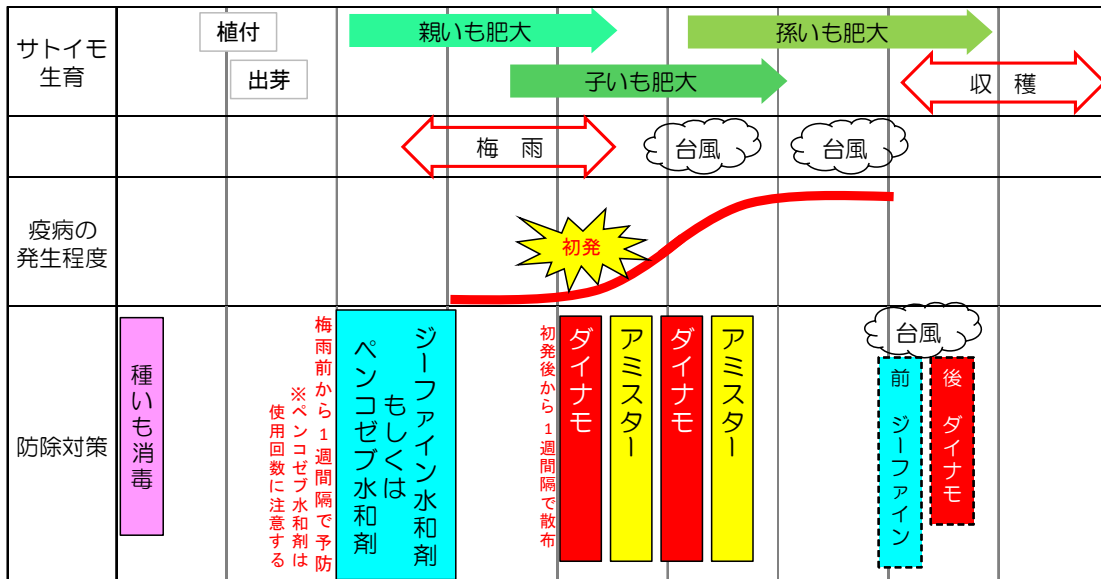


図3 さといも疫病防除体系（1例）